

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2024年第11週
(3月11日～3月17日)

- * 2024年3月21日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<https://survey.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「感染が動物で拡大!? 重症熱性
血小板減少症候群(SFTS)」も掲載しています。

令和6年(2024年)3月22日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：tmiph@section.metro.tokyo.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2024年11週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		8週	9週	10週	11週	年累計	11週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	29	38	51	32	377	199	2,755
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9)							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢				1	2	2	10
	腸管出血性大腸菌感染症		2	5	3	24	26	250
	腸チフス				1	1	1	4
	パラチフス					1		1
四類	E型肝炎	3	2	6	3	32	4	113
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎					3	1	18
	エキノкокクス症						1	2
	エムポックス	1	1			9		9
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサヌル森林病							
	Q熱							6
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	ジカウイルス感染症							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*3}						1	7
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱							
つつが虫病							57	
デング熱	1			3	10	7	32	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		8週	9週	10週	11週	年累計	11週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							3
	日本脳炎							1
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア					1		4
	野兔病							
	ライム病							
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	4	2	4		26	20	357
レプトスピラ症							1	
ロッキー山紅斑熱								
2024/3/21集計								

(全数把握対象疾患のコメント:一類～五類)

〈二類感染症〉

結核 32件 患者 13件(肺結核 9件、その他の結核 3件、肺結核及びその他の結核 1件)、無症状病原体保有者 19件、年齢は10代 1件、20代 4件、30代 2件、40代 4件、50代 3件、60代 5件、70代 2件、80代 7件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 16件、ネパール 1件、バングラデシュ 1件、ベトナム 1件、ミャンマー 1件、渡航先不明 1件、不明 11件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 患者、菌種は *sonnei* (D群)、年齢は40代、推定感染地は国外(渡航先不明)、推定感染経路は不明であった。

腸管出血性大腸菌感染症 3件 患者 1件、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO18 VT2 1件、O157 VT2 1件、O157 VT(型不明) 1件、年齢は5～9歳 1件、20代 2件、推定感染地は国内 1件、不明 2件、推定感染経路は経口感染 1件、不明 2件であった。

腸チフス 1件 患者、年齢は30代、推定感染地はインド、推定感染経路は経口感染であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 3件 患者 3件、年齢は50代 2件、80代 1件、推定感染地は国内 1件、不明 2件、推定感染経路は経口感染 3件であった。

デング熱 3件 患者 3件、病型はデング熱 3件、血清型は3型 1件、不明 2件、年齢は10代 2件、30代 1件、推定感染地はインドネシア 2件、モーリシャス 1件であった。

〈五類感染症〉

カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 3件 病原菌は *Klebsiella aerogenes* 1件、*Enterobacter cloacae* complex 1件、*Escherichia coli* 1件、年齢は50代 1件、70代 1件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は以前からの保菌 2件、医療器具関連感染(人工呼吸器) 1件であった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2024年11週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		8週	9週	10週	11週	年累計	11週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	2	3	6		27	6	105
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)			1		6	4	30
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	6	3	3	38	27	369
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) *1			1		1		6
	急性脳炎 *2	3		1		11	6	150
	クリプトスポリジウム症			1		2		5
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1		6	2	39
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9	8	7	6	88	32	517
	後天性免疫不全症候群	3	5	4	7	60	15	201
	ジアルジア症			1		4		6
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	1	1	8	6	136
	侵襲性髄膜炎菌感染症			1		1		9
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	6	5	5	66	32	574
	水痘(入院例に限る)		2	5		13	7	89
	先天性風しん症候群							
	梅毒	70	76	62	55	689	181	2,603
	播種性クリプトコックス症			1		6	6	43
	破傷風						1	15
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1	1	27
百日咳	1		2	3	12	6	119	
風しん								
麻しん			1	3	5	9	20	
薬剤耐性アシネトバクター感染症								

2024/3/21集計

*1 2018年5月1日より追加指定された。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 6件(うち死亡 1件) 血清群はA群 3件、B群 1件、G群 1件、不明 1件、年齢は50代 1件、60代 3件、70代 2件、推定感染地は国内 3件、不明 3件、推定感染経路は創傷感染 2件、その他 1件、不明 3件であった。

後天性免疫不全症候群 7件 病型はAIDS 2件、無症候キャリア 4件、その他 1件、性別は男性 7件、AIDS患者の年齢は20代 1件、30代 1件、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 3件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 6件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 7件(同性間 6件、異性間 1件)であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症 1件 血清型は未実施、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、ヒブワクチン接種歴は接種なしであった。

侵襲性肺炎球菌感染症 5件(うち死亡 1件) 血清型は未実施 5件、年齢は50代 2件、70代 2件、90歳以上 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1件、院内感染 1件、不明 3件、肺炎球菌ワクチン接種歴は不明 5件であった。

梅毒 55件 患者 34件(早期顕症梅毒Ⅰ期 21件、早期顕症梅毒Ⅱ期 13件)、無症候梅毒 21件、性別は男性 36件、女性 19件、年齢は10代 1件、20代 21件、30代 13件、40代 12件、50代 4件、60代 2件、70代 2件、推定感染地は国内 49件、米国 1件、不明 5件、推定感染経路は性的接触 51件(同性間 12件、異性間 39件)、不明 4件であった。

百日咳 3件 年齢は10代 3件、推定感染地は国内 3件、百日咳含有ワクチン接種歴は不明 3件であった。

麻しん 3件 病型は検査診断例 2件、修飾麻しん 1件、年齢は5歳未満 2件、20代 1件、推定感染地はインド 2件、タイ 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 1件、麻しん含有ワクチン接種歴は1回接種済み 1件、接種なし 2件であった。

※ 第8週該当分として〔五類〕梅毒 1件の追加報告があった。

※ 第9週該当分として〔五類〕侵襲性肺炎球菌感染症 1件の追加報告があった。

※ 第10週該当分として〔五類〕急性弛緩性麻痺 1件、侵襲性肺炎球菌感染症 1件、梅毒 1件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2024年11週

上段:報告数 下段:定点当たり

定点種別	対象疾患	2024年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		8週	9週	10週	11週		
小児科	RSウイルス感染症	31	56	65	120	262	264
		0.12	0.21	0.25	0.46		
	咽頭結膜熱	77	86	61	64		
		0.29	0.33	0.23	0.24		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	846	841	879	914		
		3.23	3.21	3.35	3.49		
	感染性胃腸炎	1,492	1,468	1,408	1,395		
		5.69	5.60	5.37	5.32		
	水痘	65	49	57	48		
		0.25	0.19	0.22	0.18		
	手足口病	10	4	1	8		
		0.04	0.02	0.00	0.03		
	伝染性紅斑	14	16	16	18		
		0.05	0.06	0.06	0.07		
突発性発しん	41	53	58	64			
	0.16	0.20	0.22	0.24			
ヘルパンギーナ	1	4	3	3			
	0.00	0.02	0.01	0.01			
流行性耳下腺炎	8	14	12	13			
	0.03	0.05	0.05	0.05			
川崎病 ^{*1}	1	2	1	4			
	0.00	0.01	0.00	0.02			
不明発しん症 ^{*1}	3	6	10	12			
	0.01	0.02	0.04	0.05			
インフルエンザ /COVID-19	インフルエンザ ^{*2}	6,964	5,214	5,588	5,847	415	419
		16.74	12.53	13.43	14.09		
	新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	2,204	1,940	1,767	1,537		
	5.30	4.66	4.25	3.70			
眼科	急性出血性結膜炎		2			39	39
			0.05				
	流行性角結膜炎	7	20	10	12		
	0.18	0.51	0.26	0.31			
基幹	細菌性髄膜炎 ^{*3}					25	25
	無菌性髄膜炎				2		
					0.08		
	マイコプラズマ肺炎		1		1		
			0.04		0.04		
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)						
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ^{*4}			1	1		
			0.04	0.04			
インフルエンザ入院	23	12	27	20			
	0.92	0.48	1.08	0.80			
COVID-19入院	180	119	128	132			
	7.20	4.76	5.12	5.28			

2024/3/21集計

*1 不明発しん症、川崎病は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は、14.09で注意報レベルが続いています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の定点当たり報告数は、3.70で先週より減少しています。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2024年11週

	小児科											
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症
～5か月	15	1		3								
6～11か月	21		2	52	2	2		16				3
1歳	44	8	14	105	1	3		32		1		3
2歳	24	11	38	111	4	2		10		1	1	1
3歳	7	5	67	110	4	1	3	6		2		2
4歳	3	10	111	123	4		2			2	2	
5歳	2	5	114	132	5		2					1
6歳	3	4	123	129	2		5			2		
7歳		3	105	90	6		1			1		
8歳		3	93	94	6		1			1		
9歳	1	5	62	70	3		1			1		
10～14歳		1	107	170	10		3		1			
15～19歳			11	41	1						1	1
20～29歳		8	67	165					2	2		1
30～39歳												
40～49歳												
50～59歳												
60～69歳												
70～79歳												
80歳以上												
合計	120	64	914	1,395	48	8	18	64	3	13	4	12
先週比	55	3	35	-13	-9	7	2	6		1	3	2

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹						
	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	インフルエンザ入院	COVID-19入院
～5か月	8	7									1
6～11か月	21	30									2
1歳	91	48								1	3
2歳	106	23								1	1
3歳	159	29									
4歳	194	29							1		
5歳	280	28								1	1
6歳	381	24								2	1
7歳	482	17					1			3	1
8歳	549	23								1	
9歳	505	24								1	1
10～14歳	1,826	154								3	1
15～19歳	476	110									5
20～29歳	180	158		1							2
30～39歳	261	179		2		1				1	2
40～49歳	220	209		7							3
50～59歳	73	189		2		1					7
60～69歳	16	105								1	15
70～79歳	13	87								2	32
80歳以上	6	64								3	54
合計	5,847	1,537		12		2	1		1	20	132
先週比	259	-230		2		2	1			-7	4

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2024年11週

	小児科											
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発しん症
千代田	1.33		1.33	3.00			0.33					
中央区		0.33	2.00	3.67				0.67				
みなと	1.17	0.33	1.50	7.17	0.17			0.17				
新宿区	1.25	0.13	3.38	2.63	0.13			0.13		0.13		
文京	0.25		3.25	9.75				0.25		0.25		
台東		0.50	6.25	7.00	0.50			0.25		0.25		
墨田区	0.40	1.60	2.60	1.60			0.20	0.20				0.20
江東区	0.56	0.44	3.33	6.44	0.22	0.22		0.11				
品川区	0.13	0.25	1.00	5.38			0.13	0.25				
目黒区	0.60	0.40	2.00	3.20			0.20				0.20	
大田区	0.54	0.15	3.38	5.92				0.15	0.15			
世田谷	0.69	0.06	3.06	5.19	0.13	0.13		0.19		0.13	0.06	0.06
渋谷区	0.25		1.00	7.50			0.25					
中野区	2.33		4.67	7.83	0.67			0.67		0.17		
杉並			0.91	3.36	0.73			0.09			0.09	
池袋	0.40		1.20	4.00								
北区	0.29	0.57	4.71	4.86	0.14			0.43				
荒川区	1.50		7.75	8.25				1.00				
板橋区		0.10	3.00	3.90	0.10		0.40	0.40				
練馬区	0.46	0.23	3.92	3.77	0.15		0.15	0.23	0.08	0.23		0.15
足立	0.58	0.75	5.67	3.50	0.08			0.33			0.08	0.08
葛飾区			3.75	2.63	0.63		0.13	0.13				
江戸川	1.00	0.08	4.17	4.92	0.08			0.17				
八王子市	0.82	0.27	4.00	7.82	0.27		0.09	0.45		0.09		
町田市	0.25	0.13	6.88	8.63			0.13	0.38				0.38
西多摩		0.38	1.25	3.25	0.13			0.13				0.13
南多摩			1.00	4.89	0.11	0.22						
多摩立川	0.07	0.14	4.00	2.86	0.21	0.14		0.14				0.07
多摩府中	0.14	0.14	4.76	6.62	0.33		0.19	0.29		0.14		0.05
多摩小平	0.29	0.64	4.07	10.29	0.14			0.43				0.07
島しょ			4.00									
東京都	0.46	0.24	3.49	5.32	0.18	0.03	0.07	0.24	0.01	0.05	0.02	0.05

	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹						
	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院	COVID -19 入院
千代田	4.75	4.00				0.50					1.00
中央区	6.60	3.40									
みなと	7.11	3.56								4.00	6.00
新宿区	7.33	3.33		0.50		0.50					4.00
文京	13.86	3.86		2.00							5.00
台東	9.29	2.14									
墨田区	9.25	7.50					1.00			1.00	5.00
江東区	19.00	2.57									
品川区	10.00	3.42		1.00							
目黒区	9.88	2.00									
大田区	11.29	3.00								1.00	3.00
世田谷	11.35	3.13		0.50						0.50	5.00
渋谷区	4.57	2.43								1.00	16.00
中野区	12.20	4.40									
杉並	9.18	3.06								1.00	4.50
池袋	9.00	4.00									
北区	10.45	4.82									
荒川区	13.86	5.29		1.00							
板橋区	14.56	2.50								1.00	6.00
練馬区	15.52	4.14									
足立	12.37	3.95		0.50							
葛飾区	10.69	5.15								3.00	5.00
江戸川	15.42	5.26									
八王子市	27.94	4.67		0.50						1.00	10.00
町田市	13.62	2.38									
西多摩	15.50	4.64									12.00
南多摩	17.29	2.86		1.00							
多摩立川	16.81	2.95		0.50							3.00
多摩府中	21.42	3.15		0.67						1.67	6.67
多摩小平	19.00	4.59							0.50		6.00
島しょ	3.50	5.50									

東京都	14.09	3.70		0.31		0.08	0.04		0.04	0.80	5.28
-----	-------	------	--	------	--	------	------	--	------	------	------

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2024年11週

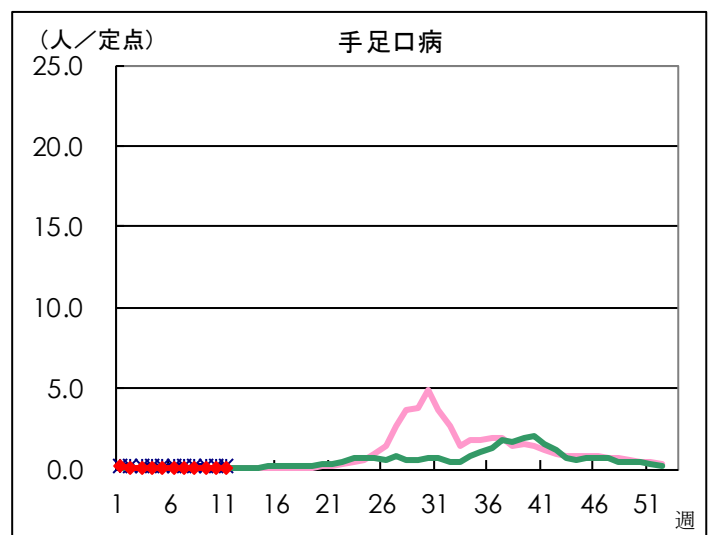
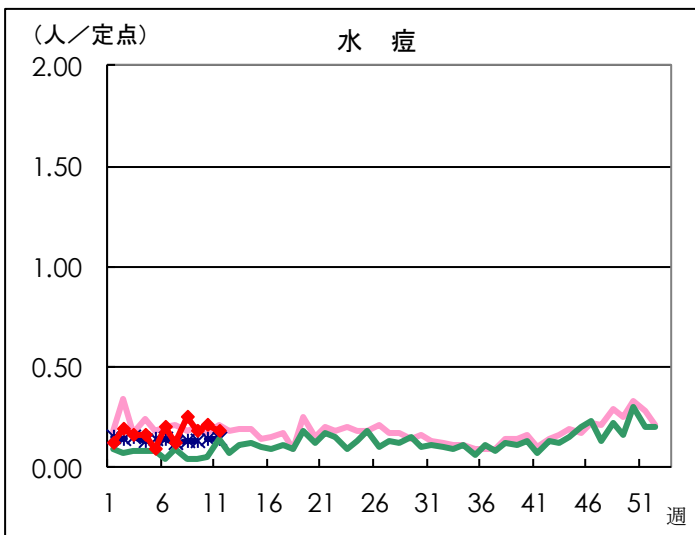
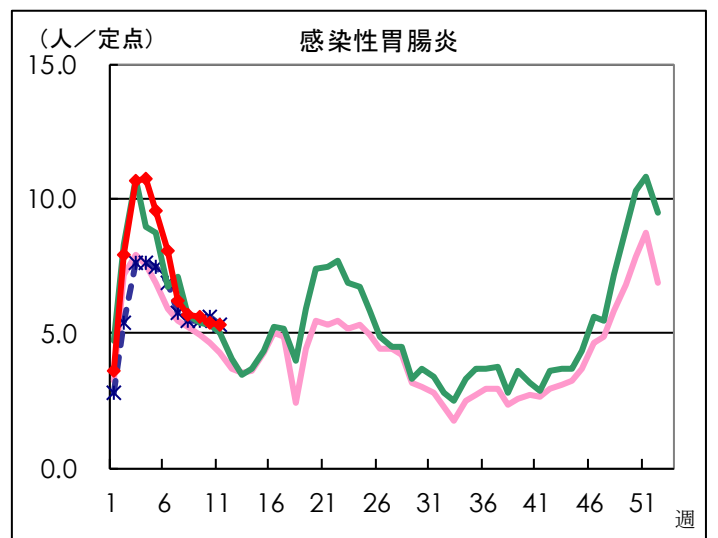
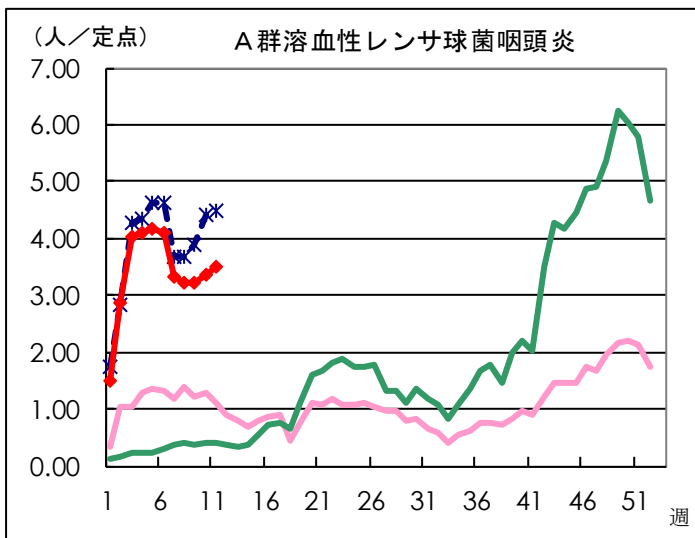
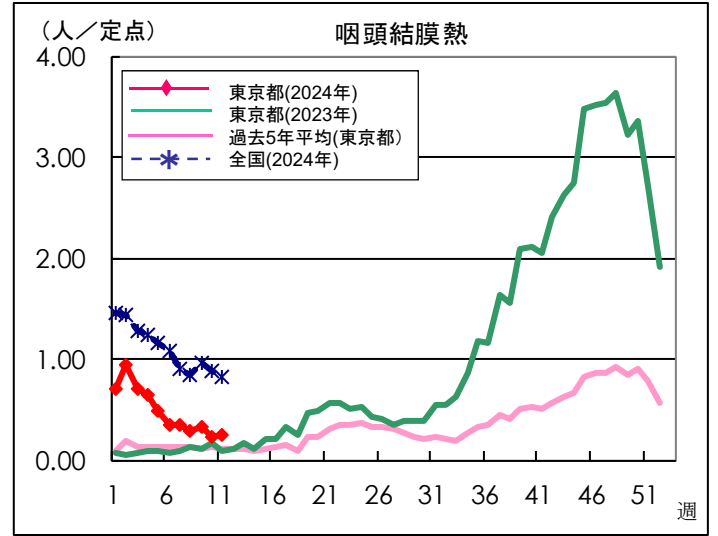
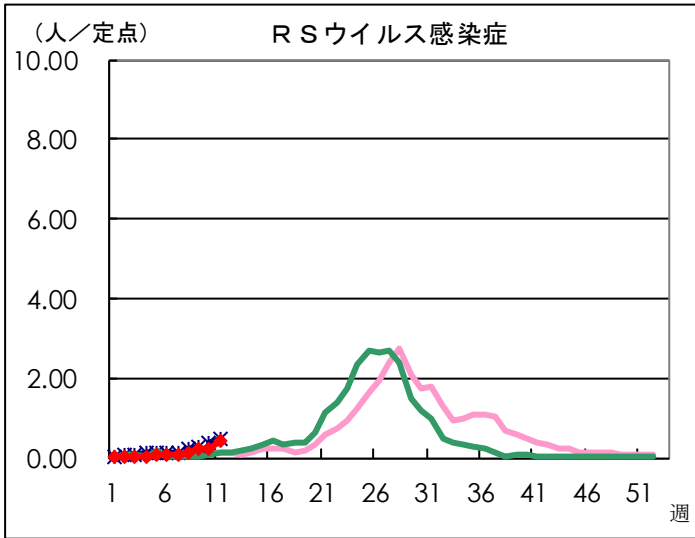
	小児科											
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症
千代田	4		4	9			1					
中央区		1	6	11				2				
みなと	7	2	9	43	1			1				
新宿区	10	1	27	21	1			1		1		
文京	1		13	39				1		1		
台東		2	25	28	2			1		1		
墨田区	2	8	13	8			1	1				1
江東区	5	4	30	58	2	2		1				
品川区	1	2	8	43			1	2				
目黒区	3	2	10	16			1				1	
大田区	7	2	44	77				2	2			
世田谷	11	1	49	83	2	2		3		2	1	1
渋谷区	1		4	30			1					
中野区	14		28	47	4			4		1		
杉並			10	37	8			1			1	
池袋	2		6	20								
北区	2	4	33	34	1			3				
荒川区	6		31	33				4				
板橋区		1	30	39	1		4	4				
練馬区	6	3	51	49	2		2	3	1	3		2
足立	7	9	68	42	1			4			1	1
葛飾区			30	21	5		1	1				
江戸川	12	1	50	59	1			2				
八王子市	9	3	44	86	3		1	5		1		
町田市	2	1	55	69			1	3				3
西多摩		3	10	26	1			1				1
南多摩			9	44	1	2						
多摩立川	1	2	56	40	3	2		2				1
多摩府中	3	3	100	139	7		4	6		3		1
多摩小平	4	9	57	144	2			6				1
島しょ			4									
東京都合計	120	64	914	1,395	48	8	18	64	3	13	4	12

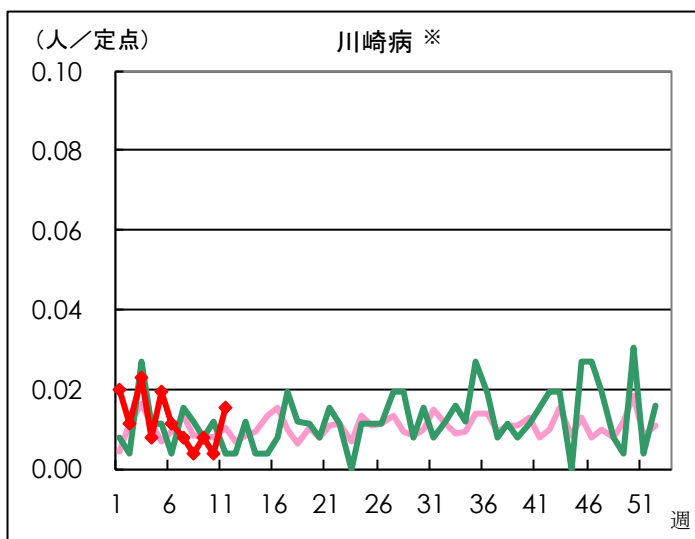
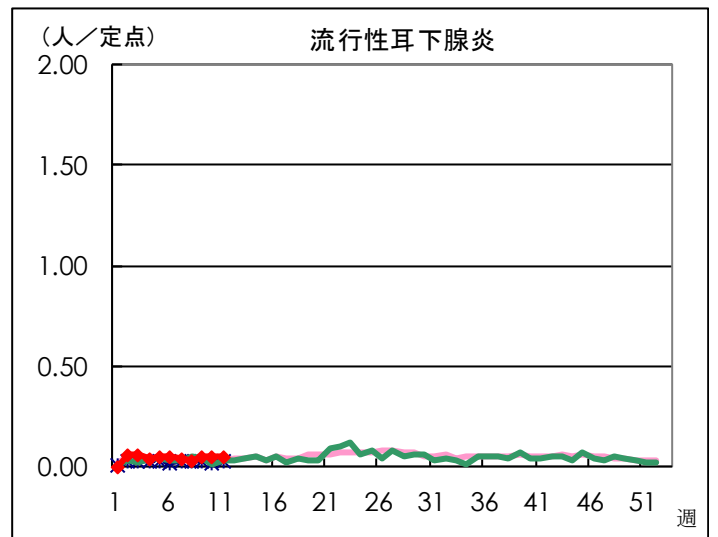
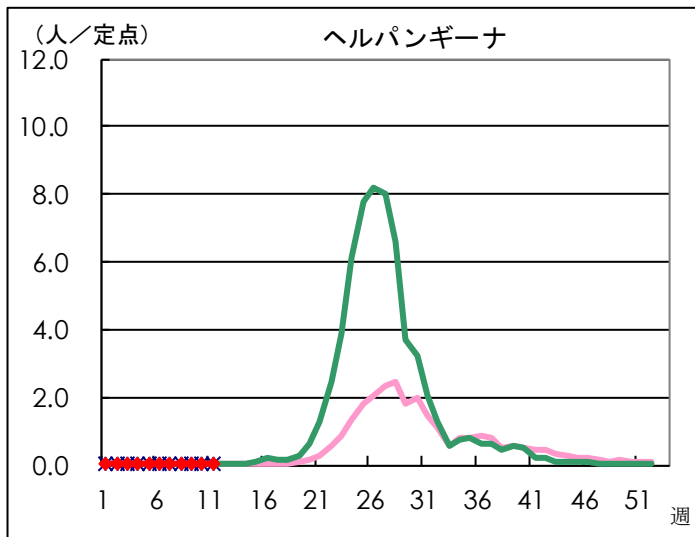
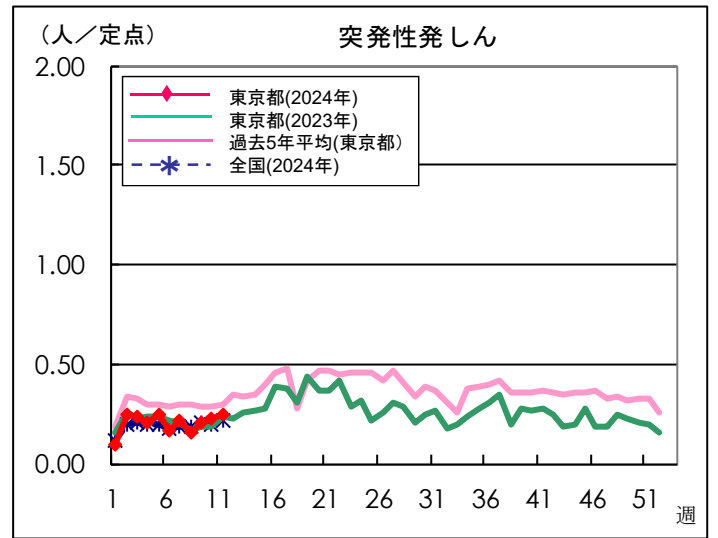
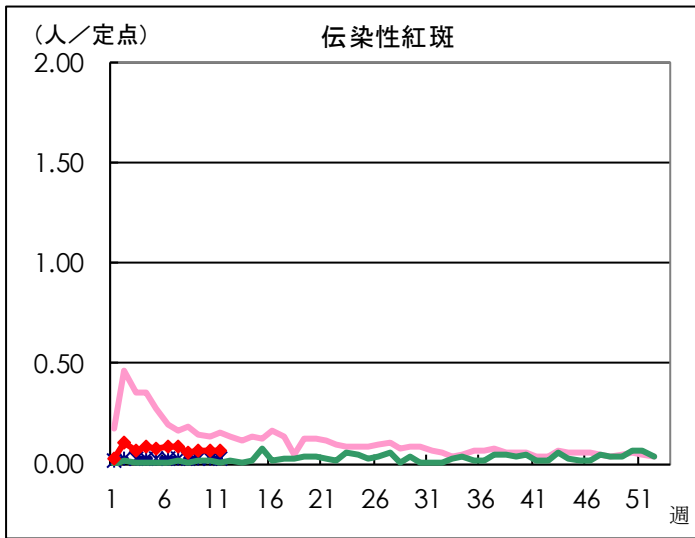
	インフルエンザ/COVID-19		眼科		基幹						
	インフル エンザ	新型コロナウイルス 感染症 (COVID-19)	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院	COVID -19 入院
千代田	19	16				1					2
中央区	33	17									
みなと	64	32							4		6
新宿区	88	40		1		1					8
文京	97	27		2							5
台東	65	15									
墨田区	74	60					1			1	5
江東区	266	36									
品川区	120	41		1							
目黒区	79	16									
大田区	237	63							1		3
世田谷	261	72		1					1		10
渋谷区	32	17							1		16
中野区	122	44									
杉並	156	52							2		9
池袋	72	32									
北区	115	53									
荒川区	97	37		1							
板橋区	233	40							1		6
練馬区	326	87									
足立	235	75		1							
葛飾区	139	67							3		5
江戸川	293	100									
八王子市	503	84		1					1		10
町田市	177	31									
西多摩	217	65									12
南多摩	242	40		1							
多摩立川	353	62		1							3
多摩府中	707	104		2					5		20
多摩小平	418	101						1			12
島しょ	7	11									

東京都合計	5,847	1,537		12		2	1		1	20	132
-------	-------	-------	--	----	--	---	---	--	---	----	-----

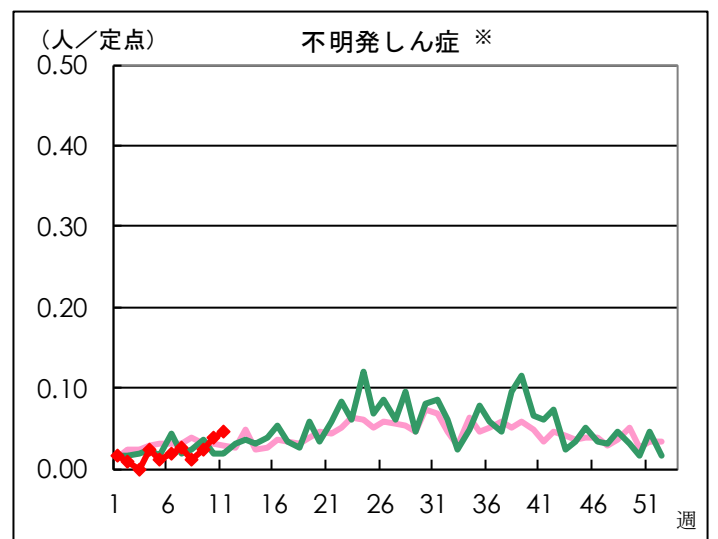
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2024年11週 現在)

◆ 小児科定点



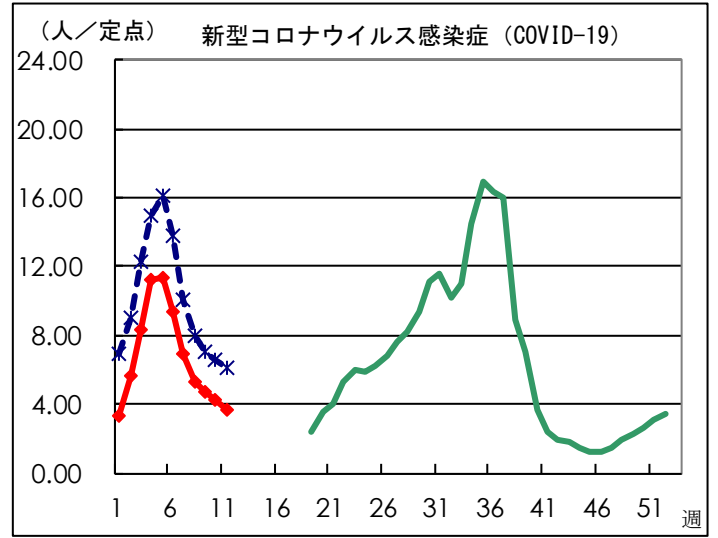
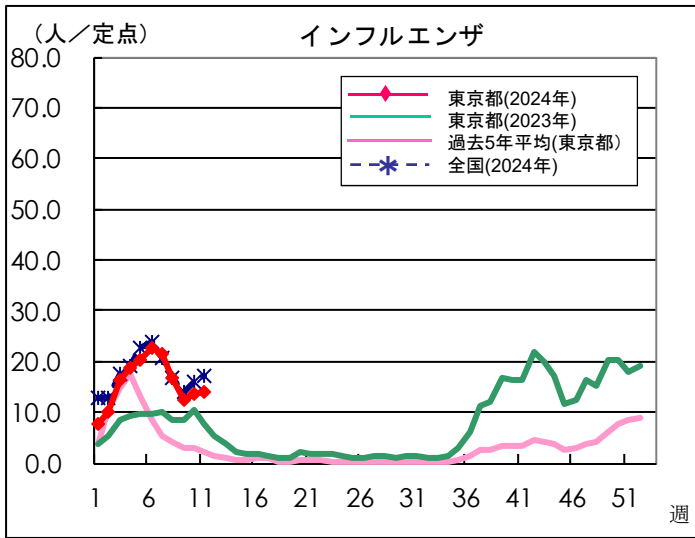


※ 東京都独自対象疾患

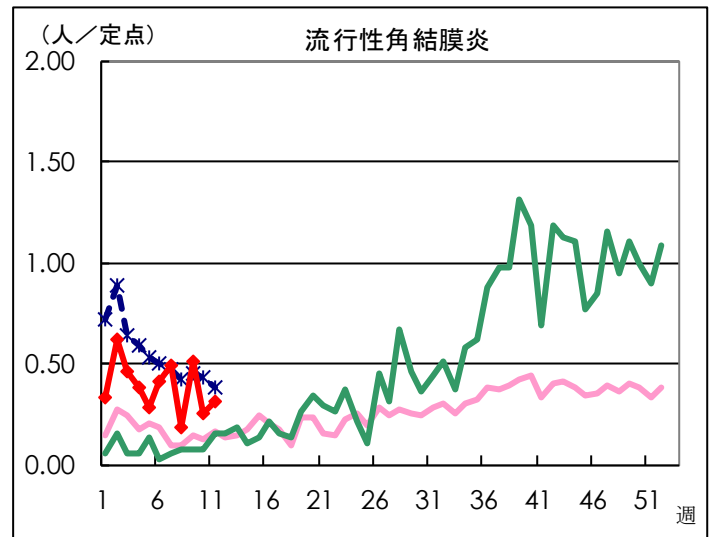
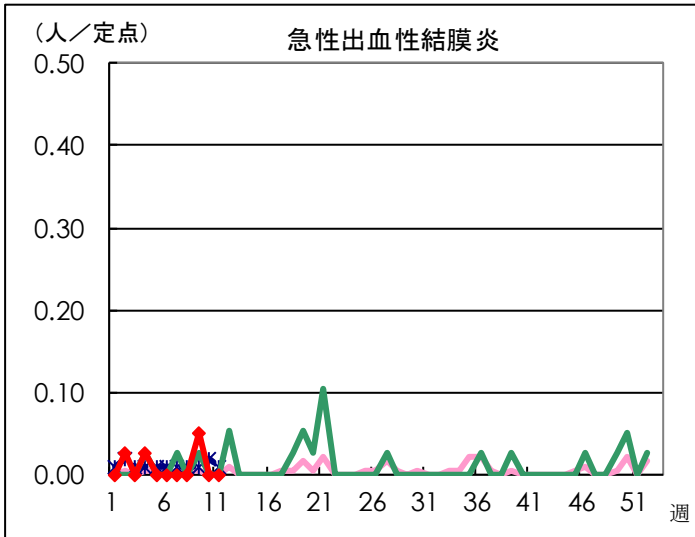


※ 東京都独自対象疾患

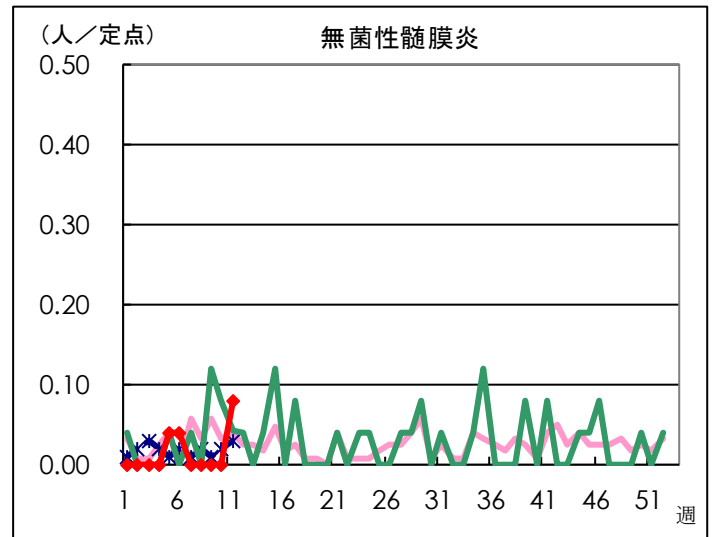
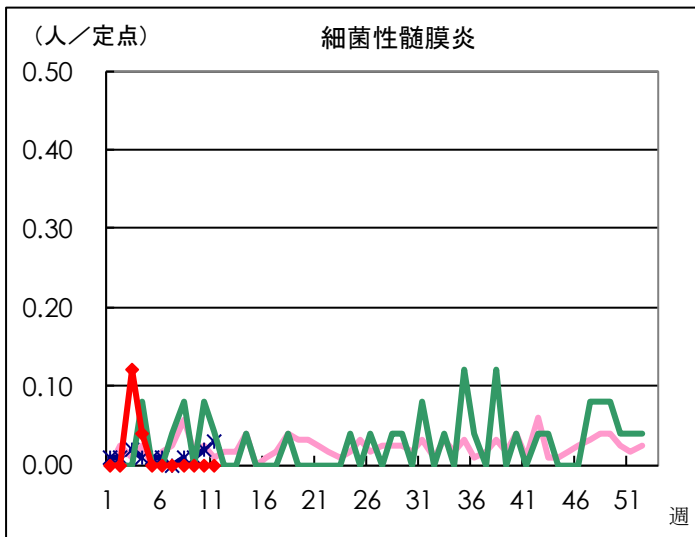
◆ インフルエンザ/COVID-19定点



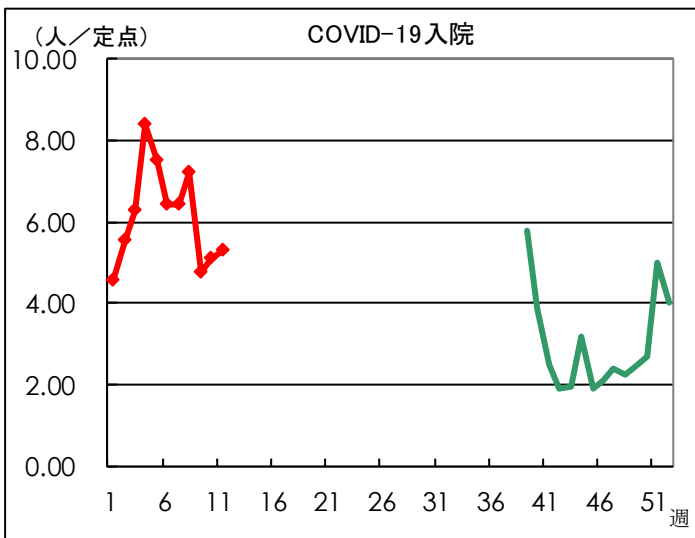
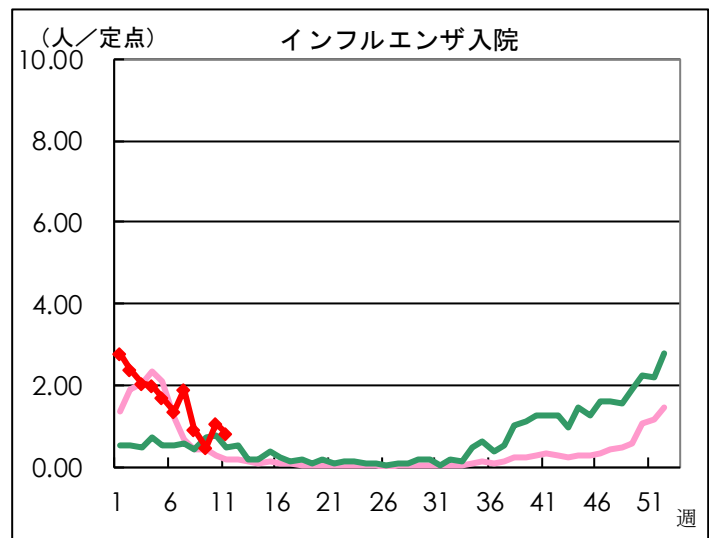
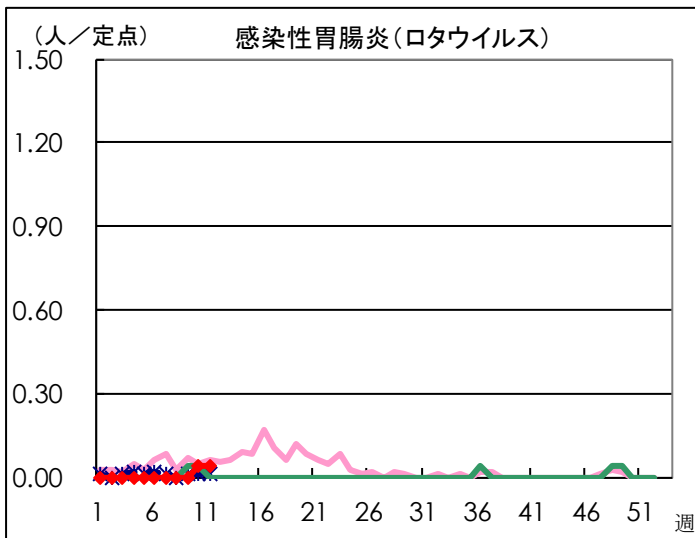
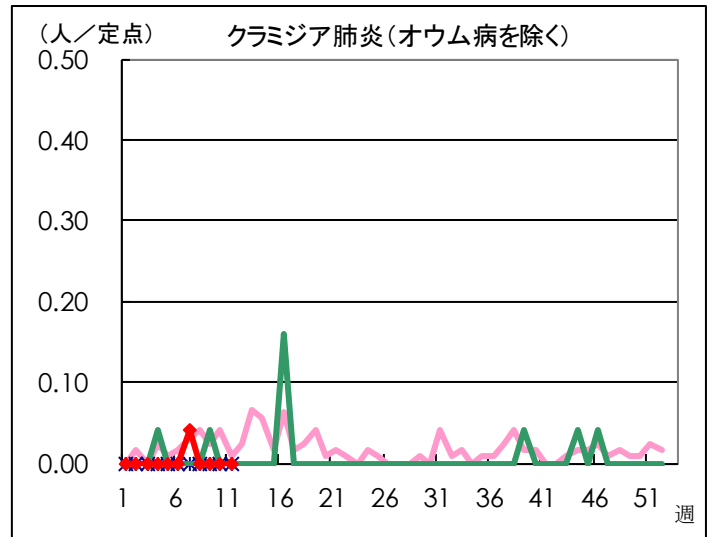
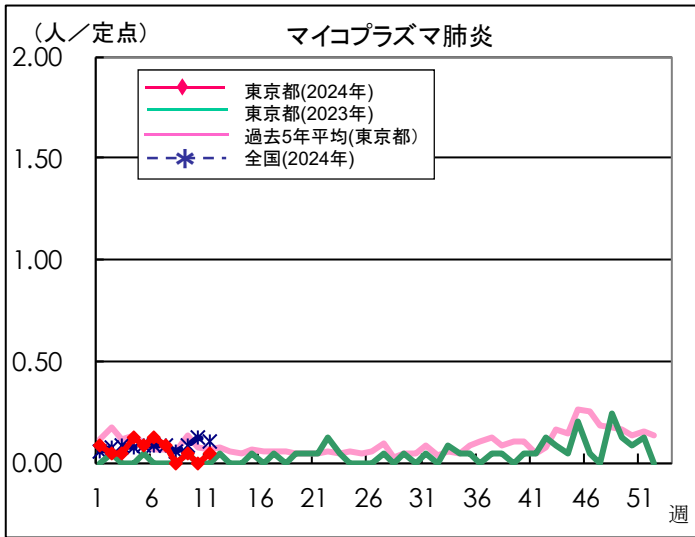
◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



◆ 基幹定点



定点医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

採取日	臨床診断名	年齢	検査試料	検出病原体
2/11	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-12型
2/20	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T型別不能
2/22	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-4型
2/24	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	咽頭拭い液	A群溶血性レンサ球菌T-1型
2/26	インフルエンザ様疾患	52	咽頭拭い液	SARS-CoV-2
2/27	インフルエンザ	11	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型Victoria系統※ ライノウイルス
2/27	インフルエンザ様疾患	4	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスB型Victoria系統※ ライノウイルス

※ 下記「遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数」の集計数に含まれる。

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

	AH1pdm09	AH3亜型	B型Victoria系統	B型Yamagata系統
2024年9週			16	
2023-2024年 シーズン累計*	105	176	86	

* 2023-2024年シーズンの開始は第36週(2023年9月4日～)

病原体検出情報【週別】

検出病原体	2024年							
	02週	03週	04週	05週	06週	07週	08週	09週
アデノウイルス		2						
コクサッキーウイルスA群								
コクサッキーウイルスB群								
エコーウイルス								
エンテロウイルス71								
その他のエンテロウイルス								
ライノウイルス		1	3		2	2		2
ヒトメタニューモウイルス								
単純ヘルペスウイルス								
水痘・帯状疱疹ウイルス								
ヒトヘルペスウイルス6型・7型								
EBウイルス								
サイトメガロウイルス								
ムンプスウイルス								
麻疹ウイルス								
麻疹A型(ワクチンタイプ)								
風疹ウイルス								
風疹1a型(ワクチンタイプ)								
ヒトパルボウイルスB19		1						
RSウイルス								
ノロウイルス	1	1						
ロタウイルス							1	
サポウイルス								
インフルエンザウイルスAH1pdm09	1	7	4	2	1		1	
インフルエンザウイルスAH3亜型	6	7	9	5	5	1		
インフルエンザウイルスB型Victoria系統	1	3	9	12	15	15	10	16
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統								
SARS-CoV-2	4	2	3	6	1		1	1
その他のウイルス								
A群溶血性レンサ球菌T-1型		1	1	1		1	2	1
A群溶血性レンサ球菌T-3型								
A群溶血性レンサ球菌T-4型								1
A群溶血性レンサ球菌T-12型	2		1			1	1	
A群溶血性レンサ球菌T-25型								
A群溶血性レンサ球菌T-28型								
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型						1		
A群溶血性レンサ球菌その他のT型								
A群溶血性レンサ球菌T型別不能								1
百日咳菌								
肺炎マイコプラズマ								
肺炎クラミジア								
髄膜炎菌								
B群レンサ球菌								
肺炎球菌								
インフルエンザ菌								
黄色ブドウ球菌								
大腸菌								
その他の細菌								
その他の病原体								

病原体検出情報【臨床診断名別】

2024年02週～2024年09週

	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	川崎病	不明発疹	インフルエンザ	インフルエンザ様疾患	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
搬入検体数	1	1	20	3			2			2		2	124	31	1	6				
アデノウイルス		1												1						
コクサッキーウイルスA群																				
コクサッキーウイルスB群																				
エコーウイルス																				
エンテロウイルス71																				
その他のエンテロウイルス																				
ライノウイルス												1	6	3						
ヒトメタニューモウイルス																				
単純ヘルペスウイルス																				
水痘・帯状疱疹ウイルス																				
ヒトヘルペスウイルス6型・7型																				
EBウイルス																				
サイトメガロウイルス																				
ムンプスウイルス																				
麻疹ウイルス																				
麻疹A型(ワクチンタイプ)																				
風疹ウイルス																				
風疹1a型(ワクチンタイプ)																				
ヒトパルボウイルスB19							1													
RSウイルス																				
ノロウイルス				2																
ロタウイルス				1																
サポウイルス																				
インフルエンザウイルスAH1pdm09													16							
インフルエンザウイルスAH3亜型													32	1						
インフルエンザウイルスB型Victoria系統													76	5						
インフルエンザウイルスB型Yamagata系統																				
SARS-CoV-2	1												4	13						
その他のウイルス																				
A群溶血性レンサ球菌T-1型			7																	
A群溶血性レンサ球菌T-3型																				
A群溶血性レンサ球菌T-4型			1																	
A群溶血性レンサ球菌T-12型			5																	
A群溶血性レンサ球菌T-25型																				
A群溶血性レンサ球菌T-28型																				
A群溶血性レンサ球菌T-B3264型			1																	
A群溶血性レンサ球菌その他のT型																				
A群溶血性レンサ球菌T型別不能			1																	
百日咳菌																				
肺炎マイコプラズマ																				
肺炎クラミジア																				
髄膜炎菌																				
B群レンサ球菌																				
肺炎球菌																				
インフルエンザ菌																				
黄色ブドウ球菌																				
大腸菌																				
その他の細菌																				
その他の病原体																				

<感染症豆知識>

感染が動物で拡大！？

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome、SFTS）は、SFTS ウイルスによって生命が脅かされるダニ媒介性の人獣共通感染症である。SFTS は 2009 年に中国で初めて確認された。日本では 2013 年に海外渡航歴のない山口県の成人が SFTS と確認された初めての患者である。国内における発生地域は、九州、四国、中国地方の西日本で多くを占めているが、2021 年に静岡県と愛知県で発生が確認され、2022 年に富山県でも確認された。千葉県では関東地方初の SFTS 感染者が 2021 年に報告された。また、東京都では旅行先の長崎県で感染した症例が 2019 年に報告されている。このように感染地域は西日本が主であったが、徐々に東日本へ広がっている。

当初 SFTS は、ウイルスを保有するマダニに咬まれたヒトが発症し、動物は不顕性感染すると考えられてきたが、最近、ネコやイヌも発症することが確認され、さらに動物園のチーター 2 頭が SFTS で相次いで死亡したニュースが流れた。

2017 年以降、マダニの媒介によらず、SFTS を発症したネコやイヌからの獣医療関係者や飼い主らへの感染・発症が報告され、社会的な問題となり、動物に接する際の感染防止対策についての啓発が行われた。

野生動物のアライグマ、ハクビシン、ノウサギ、シカ、イノシシ等、家畜ではウシ、ブタ、ヒツジ等の感染が明らかになり、特に家畜は SFTS ウイルスの潜在的な保有宿主と考えられる。また、対馬では天然記念物に指定された絶滅危惧種のツシマヤマネコの SFTS ウイルス抗体陽性例が 2022 年に環境省より発表されている。

動物（特にペット）の感染事例は、人のような届出義務はない。このような状況において、公衆衛生学的観点から動物の SFTS の重要性を考え、監視体制の確立が望まれる。

（文責 元日本大学医学部准教授 池田忠生）